社説

市街宅地の增税は商工業いぢめなり

政府にては增税の一科目として市街宅地税を三倍もしくは四倍に引上ぐるの計畫なりと云ふ近年來地價の騰貴は著しき事實にして殊に市街の地面の如き非常の價を現はしたる場處もなきに非ざれば其增率は一見差支なきが如くなれども實際の困難は決して容易ならず強ひて其困難を犯して增率を行はんとするの必要は何くに在るや畢竟政府の無力なる他に取る可きの税源ありながら之を取るの決斷なきよりして差當り斯る窮策に出でたるものならん只驚くの外なきのみ實際の利害得失は前號に論じたる如くにして斷じて取らざる所なれども今の政府は漫に議會の多數を頼んで如何なる氣紛れの事を行ふやも知る可らず危險至極なれば市街の人民たるものは事の未だ決せざるに先だち大に反對して斯る不當の增税を止めしむるの運動こそ必要なれ我輩の敢て勸告する所なり抑も市街宅地の增税の如き如何に其理由を云々するも實際には商工業者いぢめの手段に外ならず事實明白掩ふ可らざるものなり目下の財政策に增税の止む可らざるは何人も異議なき所なれば政府が果して政府たるの責任を盡し全體の上より見て增税に適當と認めたる税源に課して實際に猶ほ不足とあれば地租增徵の計に出づるも止むを得ざるの處置なる可し斯くて全國の田畑共に一般に增税の場合に際し市街宅地の價は他に比して騰貴の割合著しければとて其割合に税を課せらるゝは餘儀なき次第なれども政府の計畫を聞けば田畑の地租の如きは一厘も增すの意なきのみか最も增税に適當なる清酒税さへも大に取るの決斷なく砂糖、煙草、賣藥など細々の税源を求めて細々取らんとする其中にも市街の宅地に對して三四倍の增率とは商工業いぢめの考に出でたるや問はずして明白なる可し前年の營業税の如き國中の商工業者を煩はして苦情一方ならざるは申す迄もなく今度の增税計畫を見るも多くは間接の種類にして其負擔は自から市街地の消費者に重きの實を見るならん自然の結果にして致方なしと雖も兎に角に市街商工業者の負擔は他に割合せて自から重きを免かれざるの實ある其處に宅地税の如きは直接に市街の住民に課するものにして重に商工業者の負擔に歸せざるを得ず實際に爭ふ可らざる所なり而して國の租税に就ては割合に重きを負擔せしめらるゝ其商工業者の地位如何を見れば議政上の發言權は殆んど無視せられて憐れむ可き有樣なりと云ふ[illegible]ら今の國會議員の選擧[illegible]地方農民の利害に[illegible]たるもの[illegible]して議員は農民の代表者は議會に[illegible]多數を占む[illegible]に反し商工業者の如き適當に其利害を代表せしむるの權利を得ず全國を平均して農民の多數は疑なけれども商工業の如き今の立國の要素にして農業と並立せしむ可き筈のものにこそあれば商工業に密着の關係ある市街地には特別の權利を與へて其利害を代表せしめざる可らず一方に議政上の發言權を附與したる上にて適當の租税を負擔せしめんとなれば同じ增税にしても自から理由の見る可きものありと雖も今の政府は專ら農民の多數を味方として單に他の一方に負擔を嫁せんとするものなり市街宅地税の增率の如き之を目して商工いぢめの政略と認めらるゝも辯解の辭はなきことならん若しも此儀、默許して其政略を通過せしむることもあらんには今後次第に增長して如何なる事を提うするやも圖る可らず例へば今度の增税の如きれも姑息の小策にして明年度に至れば忽ち不如意を感じて更らに細税追徵の手段に出でざるを得ず其場合には又もや商工業いぢめと出掛るや明白なり疑ふ可らざるの成行なれば商工業者たるものは此際大に度胸を定めて自衛自防の決心肝要なりと知る可し

賣藥税

政府の增税計畫は窮餘の窮策いよ／＼出でゝいよ／＼奇なる中にも賣藥税の如き最も奇なるものと云ふ可し抑も賣藥なるものは無效無害、水を飲み湯を飲むに等しく有るも無きも差支なきものなれども其無效無害の賣藥が世俗に珍重せられて之を買ふもの多しと云ふ即ち賣藥税は恰も湯水より税を取るものにして其湯水を飲むが爲めに喜んで税を拂ふとあれば天下これに優る税源はある可らず此一點より見れば我輩の大に贊成する所なれども其結果は果して如何なる可きや政府既に大に增税の決斷を斷ずるを得ず細々の課税法を案出して宅地税と云ひ所得税と云ひ其他孰れも苦情の多き税源を求めて增税の目的を達せんとす果して目的を達し得れば妙なれども是種の税目は皆苦情の多き割合に實收入の少なきこと明白なれば假令ひ其苦情を排して強ひて課税を行ふも收入は豫算に齟齬して更らに新税源を求むるの窮境に瀕せざるを得ず必然の成行にして扨その際に至るも酒税は大に增す可らず地租は永劫未來手を觸るゝを得ずとして日本の租税界を見渡すときは賣藥税の如きは最も適當の税源にして政府の新歳入は只管これに依るの外なきを發見することならん斯くて賣藥税を唯一の税源として大に之を取るは恰も湯水に税を課するに等しく多々ますます差支ある可らず甚だ妙なれども實際に賣藥の代價は湯水に比して甚だ高からざるを得ず賣藥税は即ち其代價に課するものにして增税は自から賣藥の價を騰貴せしめて世間の需用を減ずるの結果を免かれざるが故にいよ／＼賣藥税を國の税源として之に依頼せんとするには一方に於ては是非とも其商賣を保護して税源を養ふの必要を感ぜざるを得ず例へば酒税を取るに酒精の取締を嚴にし又は自家用酒を廢するが如きは其密造を防で清酒の需用を增さしめ以て其税源を保護するの手段に外ならず左れば賣藥の保護必要なりとして其手段を如何す可きやと云ふに本來無效無害の賣藥を飮んで自から病情を慰むるものは無智無學の愚民のみ一般の人智進歩するときは賣藥の如き次第に需用を減ず可きものにこそあれば今その税源を保護して大に賣藥を飮ましめんとするには人智の進歩を杜絶して天下の人民を愚にするの外に手段ある可らず即ち今の學校教育を止め又西洋流の醫藥を廢して淺學漢醫の復活を謀るが如き最も有效の保護法にして人民いよ／＼愚にして賣藥いよ／＼繁昌す可し斯くの如きは果して實際に行はる可きや否や思ふに今の當局者と雖も決して斯くまでの愚を行ふに非ず今日の社會に恰も秦の始皇帝の事を行はんとするが如き何人も思ひ寄らざる所ならんなれども飽くまでも賣藥税の結果を想像するときは自から此極端に至らざるを得ず殆んど一場の戲談に過ぎずとして本來賣藥税の如き恰も無智無學の愚民に課するの税にこそあれば恰も娼妓に税を課して梅毒檢査の費用に供する如く其税を以て何か衛生上特別の事に使用する目的もあらんには大に取るも差支なしと雖も國家財政の一税源として之を取るに至りては只驚くの外なし我輩は敢て眞面目に此事を論ぜんとするものに非ず只政府の增税計畫の恰も兒戲に類するものゝ多きを認め其一例として聊か之を記すのみ

○家屋改良談

（廿九終）

我家屋の不完全なる次第と之を改良するに就て我輩の主義とする所は略前に記したるが如し抑も我國が二千五百五十有餘年の歷史を有しながら人民住居の發達甚しく遲々たるは何故ぞと問ふに或は地震の頻繁なる爲めなりと云ひ或は兵亂の屢々なるに因ると言ひ或は佛教の常談たる無常迅速の觀念人の頭腦に浸染せるが故なりと謂ふ各々一理ある申分なれども未だ是を指したりといふ可らず地震が必ずしも家屋をして矮小ならしめざるは塔、伽藍、天守臺、火の見櫓等の高きを見て知るべく亦全國到る處の市町に三四階の青樓飮食店あるに徴するも明なり兵亂屢々なりと言ふと雖も之を西洋に比すれば決して多しとせず況んや德川二百五十年の間は純然たる治平無事の天下にして天草小亂の外は一回も干戈を動かさず世界古今に其例しなき所なるをや是亦以て理由とするに足らず又佛教の寂滅爲樂を敎へ、妻子珍寶及び王位命終るに臨んで隨ふべきものに非ずと說法したるは幾分か人心を淡泊ならしめしに相違なきも其說法も格別の效能なきは寂滅の本家本元たる坊主共が堅牢美麗なる寺院に住し寶物を貯へて得々人に誇る有樣を見ても大抵を知るに難からず且つ若し過現未の三世を說く佛教に左程の效能ありとすれば未來一方に偏したる耶蘇教には一層の效能なかるべからざる筈なるに實際其事なきを見るも寂滅爲樂の家屋に及ぼしたる影響は些細のものたるを知るべきなり然らば何を以て之が主因と定むべきやといふに我輩は鎌倉以來武士の專權に在りと答ふるを憚からず

試に日本の家を把て武士の性情と對照すれば歷々として其相適合するを見る第一、武士は常に必死を期して其家を愛せず從つて日本の家屋は疎末なり第二、武士は多く無學なり從つて日本家屋の構造法亂脈なり第三、武士は義を先にして情を後にす從つて日本の家屋は妻子の愉快に注意する處なし第四、武士は寒暑を厭はず從つて日本の家屋に防寒防暑の用意なし第五、武士は貧乏にして盜賊を恐るゝ事なし從つて日本の家屋には其用心薄し第五、武士は經濟を知らず從つて日本の家屋は活計に便ならず第六、武士は禮を重ず從つて日本の家屋は出入に面倒なり第七、武士は身體を愛せず從つて日本の家屋に衛生の意なし第八、武士は威勢を好む從つて日本の家屋は多くの召使を要す第九、武士は變を好む從つて日本の家屋に耐震耐火の工夫あるなし一言以て之を覆へば日本の家屋は武士のテントのみ而して武士は自からテント然たる家屋に居住するを以て滿足せず其武力を以て農商工の上に臨み苟も己れが筆法に倣はざるものあれば直に之に艾除せんとし其下に在るの人民は武士の威光に平服し其機嫌を取らんが爲めに勉めて武士の筆法を學びてテント住居に安んじたるものなり

武士は華奢を好まざるものにして自ら格式を設けて生活の程度を制限するのみならず町人百姓に向つても亦極めて質素ならんことを望み嚴重に之を監督して犯すものを制するに躊躇せず身分不相應の一語を發する時は即ち手を下すの時にして其際鴻池の如く三民の頭上に富くを以て巨萬の財産あるものと雖も之を外面に顯はすを得ず止むことなきの窮策より裝飾の表裏を顚倒し下着を絹にして上着を木綿にする如き風習をさへ生ずる位なれば少しく立派なる普請を爲せば忽ち政府の爲めに睨み付られ思ひも寄らぬ禍を買ふか否ざれば其身代不相應の用金を申し付けらるゝか何れ善き事はなき方なり是に於てか出る杭は人に打たるゝなどいふ臆病者の金言を家々の金科玉條とし成るべく表面を小さく粗末にして無事の標的とならざらんと勉むるこそ一般の風となれり然れば彼の源氏及び北條氏の鎌[illegible]なる世には家屋の發達すべき道理勿論なく足

刹の中國一時
く進歩したる如
大亂に盡く灰
臣の二氏は各々
權を取りたる
都にして三百年
住には少も願
記せるものを見
光でき甲州で
手廣にはあれ
上り段には古き
外には板敷とて
いふ上既に此の
風の立派なる建
ず近世に及んで
大名は却て貧乏
が石垣の親密
れば其家屋の疎
よりては家中に
からずと聞く自
逞うする武士
受くる町人百
思ひ立つべきや
こと亦是非もな
今や家屋改良の
影を收め如何な
新家妙趣を出す
由を心棒し窮屈
も昔の如く錦を
先して僅に平生
ち我輩の主義を
に在るの快樂を
たるべし果して
も亦漸く我開化
加ふべきなり

近頃記者に書
は至極贊成な
は盛にして
易に變更する
に之を論破し
誕無稽なるは
妄信するの止
るに因る故に
教育を盛にす
篇起草の主旨
を預り置くも

○アラス[illegible]關する

當今アラスカよ
を以て目下該地
々乗陸に到着す
議の意見を以て
なり

一、東部に於
ン當上流地
二、西北部に於